（別紙4）　　平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3690200013		
法人名	株式会社ビオトープ		
事業所名	グループホームそよかぜ		
所在地	徳島県鳴門市瀬戸町明神字上本城77－2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地　県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成27年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員間の中も良く報告・連絡・相談を通し情報の共有が出来ておりチームケアとしての実践へ繋げている。連携がとれていることから時間にゆとりができ職員間において助け合い、スムーズに1日の流れを作ることが出来ている。入居者においてもその環境と雰囲気が伝わっており精神状態が安定されている姿が見受けられ、日々穏やかに過ごされている。 また、定期的な勉強会を開催することで様々な知識を習得することができ分かること、分からない事を職員間でフォローしあい一人一人の良いところを活かして伸ばし、職員の質の向上にも反映してきている。チームワークがありつつ、切磋琢磨し職員の育成と共に利用者の笑顔につながるように日々努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は海の近隣にあり、静かで落ち着いた環境に位置している。管理者と職員は、利用者が自分の力を維持しつつ、自立した生活を送ることができるよう支援している。事業所内で身体拘束等の勉強会を実施するなどして、安全面に配慮した自由な暮らしの支援へと繋げている。前回の外部評価の結果と目標達成計画を振り返って、今回の自己評価を全職員で実施している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　そよかぜ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
[redacted]					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人に事業所理念の紙を配布している。また、事業所内の見えるところに貼付することで毎回勤務する際に志を確認する。申し送り時にもその旨を報告・連絡・相談において共有しあうことで実践に繋げている	事業所内の目につきやすい場所に理念を掲示している。職員は、毎日、理念を確認して共有し、実践へと繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	きれい会や地域の清掃活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	利用者と職員で、町内会（きれい会）の清掃活動に参加しており、地域の一員として交流を続けている。地域のボランティアや保育所の子どもたち、小学生、中学生の来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などにおいて、地域の人々に認知症の方の特質、あり方、支援方法を説明のうえ伝達している。そして地域の方からの支援にも了承を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に取り上げられた内容について、色々な意見を出していただき職員に報告して実践するようにしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議時には、利用者のお茶の接待で始まり、事業所の現況や行事報告等を行っている。市担当者や地域包括支援センターの出席を得ているが、参加者が少ないことなどから双方向的な意見交換の機会となるまでには至っていない。	事業所側からの報告のみならず、直面している課題を提示するなどして、出席者から意見や助言を得て、双方向的な会議となるよう働きかけられたい。また、様々な地域の方へ協力を呼びかけるなどの取り組みにも期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告書の提出時や運営推進会議時に帳面している課題について意見を頂いているが、これから市町村職員との関係を構築したいと思っている	職員は市担当窓口を訪問し、介護認定の更新時や困難事例等に関する相談に応じてもらい、必要なアドバイスを得ている。また、市の介護相談員の受け入れもしており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	二階に位置しており、出るとすぐ急な階段のため危険を伴うが施錠はしておらず毎回出入口付近を確認しながら業務に努めている。	事業所内で高齢者の権利擁護や身体的拘束に関する勉強会を開催している。利用者が外出しそうな様子を察知した際には一緒について行くなどして、安全面に配慮しつつ自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し虐待の自覚が無いことが虐待行為につながっていくことに気づき、虐待が見過ごされることがないよう注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価　そよかぜ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方が入居されており、その方に槌手の生活歴等を理解し職員間で周知することで成年後見人制度の必要性や役割を話あっている。また、日常生活自立支援事業においてはいまだ説明不十分であり、今後も職員全体で学んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は不安や疑問を尋ね、十分な説明を重ね、理解や納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時、何でも言っていただけるよう雰囲気作りに留意している。ご要望の際は職員間で話し合い、連絡ノートに記入して運営や介助、業務などに反映するようにしている。	利用者や家族が意向を表出しやすいよう、積極的に職員から家族へ働きかけるようにしている。利用者と家族の意見は記録したうえで、管理者と職員間で検討して運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回全体会議を開催して職員の意見を聞く機会を設け反映させるようにしている	日頃から管理者は、職員が話やすい職場環境作りに努めている。今回の自己評価は、管理者が中心となって、前回の評価結果を踏まえて全職員で取り組むなど、事業所全体の質の向上に向けた取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況などを理解し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交代で研修を受ける機会を設けているが、勤務体制などで参加できないことがある。研修報告は毎月の全体会議で発表している。また職員自身が進んで研修を受けたいと思えるような環境作りに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価や運営推進会議で交流する機会が少なく少しづつ同業者と交流する機械を作りたいを思っている。		

自己	外部	項　目	自己評価　そよかぜ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の意見を傾聴しアセスメントシート、介護計画を作成している。その資料を基に全職員に伝達し実践していき本人の安心できる環境作り、信頼関係に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や決定時に家族と蓮レア苦を取り合い困っている事や不安な事などを聞く機会を設け、施設内生活での不安を和らげるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1回にデイサービスの利用や、他のグループホーム、施設利用を勧めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築き、お互いが協働しながら穏やかな生活が出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際に、本人との関係を伺いつつ家族の意見や思いも傾聴している。そして、本人の気持ちを第一に家族の要望も受け入れ支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られた際には、ゆっくりとお話がしていただけるような雰囲気作りと環境づくりに留意している。また、外出行事において馴染みの場所へ出かけるように心がけている。	地域に暮らす友人の来訪時には、居室に案内してゆっくりと過ごしてもらうことができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に共同作業やゲームなどを通じて仲間はずれにならないよう注意をはらっている		

自己	外部	項　目	自己評価　そよかぜ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があれば相談にのったり、それを含めた支援に努めている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での声掛けで適切な判断を行い現状の把握に努めている	意志の表出が困難な利用者には、日頃の行動や表情等がら本人の様子を把握したり、家族から情報を得たりして、本人本位の支援へと繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の会話や家族との話からその方を知る参考にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録などで利用者の現状の把握に努めている。出来ないことよりも出来る事に注目している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に意見を聴き反映させるようにしている	本人や家族、また医師や関係者等の意向を反映した介護計画書を作成している。本人の状態変化や要望に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し、食事、水分量、排泄、身体状況、精神状況、日々の暗いsの様子を記録している。情報を共有して見直し支援に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態により、通院や買い物など必要な支援は柔軟に対応している		

自己	外部	項　目	自己評価　そよかぜ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望によりデイサービスを利用できるように支援している。本人の希望で訪問美容師のサービスを利用していただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人や家族の希望に応じ対応している。月２回の往診医により、相談や協力を得て安心した医療をうけている。	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医の受診を支援している。受診時には、職員が同行して利用者の状態を伝えている。訪問診療も受け入れており、適切な医療を受けることができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月曜～土曜の朝、看護師がバイタルチェックを実施している。医療面での相談、発熱や状態の変化にアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐ為に医師を相談し、施設内での対応可能な段階で退院している。出来る限り職員が見舞うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況を家族に説明して主治医と家族との話し合いの場を設けている。施設内で可能な事と不可能な事を話して理解していただいている	入居時の段階で、事業所が対応できるケアについて説明している。利用者の状態変化に応じて家族や関係者へ状況や意向を伝達し、職員間で方針を共有して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備するべき事については職員で対応できるように勉強している。初期対応の研修をうけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の協力のもと、利用者と一緒に火災訓練、避難訓練、初期消火の訓練を受けている	消防署の指導のほか、利用者や地域住民の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。災害時に備えて様々な物品を備蓄している。	

自己	外部	項　目	自己評価　そよかぜ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話しやすいように地元の言葉で話しかけたり、自分で決定しやすいような言葉掛けに気をつけている	職員は、利用者を年長者として敬って接するよう心がけている。全職員で言葉遣いについて話し合うなどして、丁寧な対応ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が全て決定する事なく、複数の案を出して選んでいただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の場所で自由に過ごされているが、食事，体操、入浴などはスタッフの都合で決めている事も少なくない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の更衣は利用者に尋ねて職員が用意している。しかし自己決定が出来かねる利用者においては職員が決めている。また、レクの一環としておしゃれクラブと称しマニキュアや化粧などしていただくことで非常に喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り利用者の方の好まれるものを厳選して自分の力を活かしながら摂取していただいている。色彩、栄養バランス体調管理にも留意している。また可能な利用者には野菜を切る準備やお皿洗いなどの片付けもお手伝いしていただいている。	朝・夕食は、職員が書籍を参考にして、利用者の希望に添った献立を作成している。昼食は、併設事業所の厨房で作ったものを利用者が盛り付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を介護記録に記載し、できるだけ本人の好きな物を出すようにしている。水分量は1日1リットル以上を目安にしている。水分制限されている利用者の方には主治医と相談の上決定している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存機能を活かして本人が出来る限りの範囲は自身で行っていただいている。仕上げ磨きやポリデントなどの消毒は職員が行っている。月に3回は歯科衛生師の方にブラッシングを行っていただいている		

自己	外部	項　目	自己評価　そよかぜ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を必要とする利用者はここの排泄記録により排泄パターンをしり、トイレ誘導し失禁に至らないように常時心掛けている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。ベッドの近くにポータブルトイレを置いて使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の対策として運動療法、食事療法、水分の摂取量に留意している。また、それでも排泄がない場合は看護師や医師に相談の上薬剤療法に繋げている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月・水・金の午前中と入浴日を決定している。多少職員の都合になっていることもあるが現状では利用者からの日時に指定は聞かれない。入浴時は入浴剤などをいれ入浴が楽しめる工夫もしている。出来る限り本人の意見を尊重して順番を決定している。	入浴を拒む利用者には、無理強いすることなく時間を置いて職員が声をかけるなどして、楽しく入浴することができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースで居室で休息したり、ホールで居眠りなど利用者さんに応じた方法で過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録や往診記録、連絡ノートなどで変更や服薬を理解して状態の変化に十分に注意し申し送りをするように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の意見や希望を聞きそれぞれに合った仕事や趣味、嗜好品などで楽しく生活が出来るように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻繁な外出は難しいが季節行事（お花見、阿波踊り、初詣）の外出が全員参加できるように努めている。また、可能な方はお買い物などで外出していただいている	天気の良い日には、事業所の周辺を散歩するなどの支援を行っている。外出の困難な利用者は、ベランダで日光浴をしたり、歩行器で廊下を歩いたりしてもらっている。八十八ケ所参りにも出かけている。季節の花見や神社へのお参りに出かけるときもある。	

自己	外部	項　目	自己評価　そよかぜ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者には所持していただいているが、おき忘れや置き場所が移動していることで把握できなくなる事がある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり本人から手紙が書きたい、電話がしたいとの意見はないが送られてきた際や電話がかかってきた際には接触できるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには扉はつけていない。仲でかぎを掛けて出られなくなり困ったことがあった為カーテンで対応している。	事業所の窓からは、海を眺めることができる。廊下に行事の写真を飾っている。台所からは利用者が食器を洗う水音が聞こえるなど、家庭的で落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間は一体的な作りで、食事のテーブルや椅子以外に畳ベットやソファーを置き、利用者が思い思いにくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族に使い慣れたものや馴染みのものをお願いしているが持ってこれる様な物が無いと持ってきてくれない事が多い	事業所では、ベッドや布団など、好みの寝具を使用してもらっている。また、馴染の物を持ち込んでもらえるようにしている。居室内は畳敷きとなっており、暖かく落ち着いた雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何が分かりにくいのかを把握して分かる工夫を行っている		